

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和1年10月8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1671800447		
法人名	医療法人社団 萩野医院		
事業所名	グループホームやつお		
所在地	富山市八尾町井田 6 1 0 番地 1		
自己評価作成日	令和元年8月16日	評価結果市町村受理日	令和元年11月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	令和元年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は法人母体である萩野医院と24時間の医療連携をとっており、入居者が身体機能の低下や認知症の重度化が進んでも安心して過ごせるように支援しています。また看取りも行っており本人や家族が最期まで不安なく支援を受けられるよう多職種連携の体制を整えています。入居者は八尾町の「おわら風の盆」や「曳山祭り」など季節の行事とともに日々を過ごし、職員は言葉にならない本人の想いに寄り添い、それを支え、地域の中で一緒に生活をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

萩野医院との24時間サポート体制が構築され、一人ひとりの健康状態を見守りながらケアが行われており、利用者・家族ともに安心して過ごしている。地域の催事に参加するほか、訪問してくれた園児たちに肩をたたいてもらったり、ボランティアの受け入れも行うなど、地域との関わりを大切にしている。庭の畑で芋ほりを楽しんだ後、それが食卓に上り、会話が弾むなど利用者は生活意欲を増している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

グループホームやつお

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念である「ゆっくり楽しく和やかに」は当時の職員が考えて作り上げたものです。朝礼時とカンファレンス時には必ず職員皆で唱和し理念の共有につなげています。	法人統一の理念に加え、事業所独自の目標として「利用者が安心・安全に過ごせるように」と定め、目標を目にしやすいくリビングなどに掲示し、職員全員が共有できるよう、朝礼時やカンファレンスの時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は町内会に所属し日常的につながりをもてるようにしています。また春祭りやおわら風の盆などを通して地域との交流をしています。	地域との関わりを大切にし、保育園児たちとの触れ合いや祭りの獅子舞が来てくれるのを利用者は楽しみにしている。また、風の盆の「おわら」見学には、関連施設で舞いを見ることができ、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は地域の保育園やボランティアの受け入れをしており、それらを通じて認知症の人の理解を促しています。また地域からの介護相談がある場合も対応できるよう準備をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を隔月で開催しています。行事や研修の報告の他、入居者への身体拘束廃止の取組みについても報告し、意見を頂いています。	運営推進会議は定期的開催され、事業所からはケアの現状や実施された催事や研修の様子などを報告している。また身体拘束廃止の取組みについても、委員から意見などもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し入居者やそのご家族の支援に努めています。	地域包括支援センターとは、様々な入居者の課題など相談しており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束について研修を実施しています。また3か月ごとに身体拘束廃止にむけたケアについて話し合いを行っています。身体拘束が入居者に与える影響を職員が理解し、協力し合い安全なケアを行っています。	身体拘束をしないケアについては、職員全員に徹底されており、利用者の尊厳と主体性を大切に支援に取り組んでいる。入居日が浅い利用者には、笑顔ある生活が送れるよう、やさしく接している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者虐待について研修を実施しています。また自分たちの行っているケアについて定期的に自己評価を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおられます。制度利用開始時には、当法人担当者と事業所の管理者、後見人、入居者の家族が各々の役割等について話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が契約内容や重要事項について説明をしています。家族や入居者の疑問や不安があれば随時、理解が得られるまで説明をし納得していただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、家族へ満足度調査を実施し、その結果を家族交流会で報告しています。また家族の面会時に入居者の近況を伝え、意見や心配事を伺っています。必要なことは改善し、日々のケアに反映させています。	家族が面会に訪れた時や毎月「やつお通信」を届ける折に、事業所に対する意見や要望を集約している。また、事業所では毎年家族に対してアンケートを実施しており、必要な提案があれば、職員間で話し合い改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や毎月のカンファレンス時に職員から意見を聞き、即時決裁することもあります。意見によっては法人全体の会議でも取り上げ、問題解決に努めています。	管理者と職員との定期的な面接は持たれていないが、管理者は日常的に業務に関わり、職員の利用者に対する意見や要望を聞くようにしている。一方、職員自身の不安や悩みを取り除くよう対応に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況を把握し、人事考課も活用しながら法人本部に職員個々の努力や実績を報告しています。法人はそれらを踏まえ働きやすい環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は年間計画をたて、それに則って職員研修を実施し質の向上に努めています。また認知症介護実践者研修やリーダー研修を受ける職員もいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	サービスの質の向上に向けて情報交換を行っています。外部の研修会への参加や八尾地区の同業者の交流会などに参加しネットワーク作りに努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後から入居者本人の言動に表出される想いを傾聴し安心して過ごせるよう配慮しています。不安を感じている場合は速やかな対応を心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みや契約の時に、心配や負担に感じている事、要望を聞き、思いに共感しています。入居者本人が安心して過ごしてもらえるよう配慮した対応を心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を元にケアを展開し、初回アセスメントを作成しながら初期段階での課題を見極めてサービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームを生活の場と捉え、本人が出来る事や以前からしていた事を継続して頂き、自身の充実した気持ちや生きがいを感じてもらえるよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「グループホームやつお通信」には本人の近況を添えて家族に送付し、関係の継続を支援しています。また家族との外出等を通して、本人のこれまでの生活支援に協力していただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	方言クイズや昔の歌謡曲を歌う等のレクリエーションを通して、本人の馴染みの環境や人について思い起こしてもらおうよう努めています。	家族の協力を得て外食や墓参りに出かける利用者もいる。また、地元の理容組合の協力を得て定期的な訪問もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者それぞれが過ごしやすいよう座席のレイアウトに配慮しています。また本人の好き嫌いや能力に合わせてレクリエーションに参加していただいています。職員は入居者同士の交流の橋渡しも担っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	切れ目のないサービスの継続のため、退去された場合も必要な情報の共有や支援を行い、本人や家族のフォローをしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	当事業所では1日の大まかな流れはありますが、基本的には本人のペースを尊重して過ごしていただいています。食事の好みや希望には可能な限り対応しています。	利用者とのコミュニケーションを図りながら、思いや意向の把握に努めている。スムーズに言葉で言い表せない思いや行動にも意味があることを理解し、本人本位に検討している。情報は職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には本人がこれまで使用していた馴染みの家具や写真などを持ち込んでいただいています。家族や前任のケアマネジャーにも聴きとって情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録物やアセスメント等により本人の心身状態や能力等、現状の把握と共有をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護、看護、主治医等、多職種連携して介護計画を作成し家族に同意を得ています。また朝礼やカンファレンスで具体的なケアについて話し合い、実践しています。	利用者、家族の思いや関係者からの意見を参考に、入居時には生活に馴染み、安心感のある生活を送ることができるような介護計画に取り組んでいる。日々の関りでモニタリングやアセスメントを行い、現状に即して職員間で見直しを図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子やケアの実践を個別に記録しています。申し送りノートを活用し職員間の情報共有に努めています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者本人を中心としたケアの実現に向け、法人内の他の事業所にも意見をもらいながら柔軟な支援ができるよう努めています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	おわら風の盆や保育園との交流会、近所への散歩など、入居者が生き生きと暮らせるよう地域資源を使った支援をしています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は主治医の訪問診療を受けており、日常的に法人母体の菟野医院と連携を密にとっています。緊急時や体調不良時には家族へ連絡し、速やかに受診を行っています。	母体法人の菟野医院との医療連携が確立されており、いつでも適切な医療が受けられよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は毎日の健康チェックの結果を看護職員と共有し、体調管理に努めています。また不調に気付いた場合も看護師に相談し、受診などの助言を受けています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院した場合は入院先の担当部署と情報共有しています。入院中の状態の把握と退院の予定、また本人や家族の意向も確認し、切れ目のないサービスを継続できるよう努めています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>当事業所では看取り介護を行っています。入居契約時に看取りの指針について説明し同意を頂いています。実際に看取りの段階になっても本人や家族の意向を確認しながら主治医、看護師、介護職等多職種で連携して支援に取り組んでいます。</p>	<p>終末期対応に於いては、利用者や家族の意向を尊重し、方針を確認しながら医療関係者との連携を図り、チームの一員として支援に取り組んでいる。最後まで穏やかに過ごしてもらえるよう、撫でさすりなどのスキンシップや日常の声かけを行うなど、尊厳を持って本人の心安らぐ対応に努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDの研修を実施した経緯があります。また地域の消防署の協力を得て緊急時の対応について研修を受けている職員もいます。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、自衛消防訓練を実施しています。近隣住民にも参加の声掛けをしています。</p>	<p>年2回、様々な災害を想定した避難訓練を行い、利用者を駐車場まで誘導している。地域が指定している避難場所は確認しているが、地域の防災訓練などには参加していない。</p>	<p>地域の防災訓練に参加し、地域住民との情報交換や協力体制を呼び掛けたり、災害によるライフラインが遮断された事態も想定し、職員の体制や備蓄品の見直しも随時進めていくことが望まれる。</p>



自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴等のプライバシーに関わる身体介助の他、認知症の方への言葉のかけ方にも配慮し、本人の人格を尊重した介護を心がけています。	利用者によっては日々感情の波があり、その時々本人の言動を受け止め、人格を尊重しプライドを損ねない関わり方を職員間で心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は「してください」ではなく「しますか？」と声をかけ、本人が意思決定できるように工夫しています。返答ができない入居者には日頃の様子を踏まえ職員が代弁者となり支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人のペースで生活できるよう配慮して共同生活介護を実施しています。食事の時間や入浴の曜日などは柔軟に変更対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせて衣類を見立てています。またお化粧をされる入居者もおられ、継続できるよう家族と協力して支援しています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器のかたづけを入居者は職員と一緒にしています。また昼食前には嚥下体操を行い美味しく食事が出るようにしています。	地元のお米や野菜を使い、温かい食事が提供され、利用者は美味しく味わっている。自分で食べる意欲を尊重し、一人ひとりに合わせて声かけを行いながら時間をかけて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量を記録しています。好きな飲み物を提供したり食べやすい形態に加工し、十分な摂取量を確保できるように工夫しています。毎月体重測定をし、体重の増減も注意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に入居者それぞれに合わせた口腔ケアをしています。必要な場合は家族と協力し歯科受診をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄状態を把握し、気持ちのいい排泄を支援しています。本人の身体機能の維持のためにも出来る限りトイレでの排泄を心がけています。	利用者の尊厳を守り生活意欲をなくさないよう、出来る限りトイレでの排泄を進めている。落ち着いた利用者には、プライドを損ねない声かけを心がけて、失敗のないよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師を中心に予防と対策を行っています。排便間隔の確認、牛乳の提供、体操や腹部のマッサージ等を行い気持ちのいい排泄の支援をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっていますが、無理強いせず本人の意向を毎回確認しています。柔軟に入浴者を変更し、快適な入浴を支援しています。	入浴においては本人の希望や体調を見ながら進めている。浴槽の出入りなどで職員2人介助が必要な時もあるが、安全面に気を付け、ゆったりとした気持ちで入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる入居者もおられます。本人の体調にも配慮して適宜に休息をとっていただいています。また夜間もゆっくり眠っておられます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心にして服薬管理をしています。薬の変更があった場合は申し送りノートや朝礼の時間を使って職員に連絡、説明をし情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の後かたづけや洗濯ものの取り込みなど家事を手伝ってくださる入居者がおられます。また梅干しやヨーグルトなど本人の嗜好品を楽しんでおられます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や町内の回覧板を回すことなど日常的な外出を継続できるように努めています。また外食やカラオケ、お墓参りなど家族の協力のもと行っています。	お天気を見て近所を散歩したり、駐車場に出て畑の野菜の育ち具合や田んぼの稲穂の実りで季節を感じている。春の花見や風の盆の「おわら」見学は利用者も楽しみにしており、地元ならではの風情を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、入居者がお金を持つことが本人の社会参加にとって大切であることは理解していますが、現在は認知症の重度化にともない家族が金銭管理を行っています。本人が欲しいものがある場合は家族に連絡し一緒に買い物に出かけられるよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や母の日、暑中見舞いなど家族から届く手紙を楽しみにしている入居者もいます。また本人が希望されれば電話をかける支援もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の敷地内で花や野菜を栽培して季節を感じていただいています。また共用空間ではその季節にあった室温や明るさを調整して過ごしやすい環境づくりに努めています。また入居者が作った作品を飾ったり懐メロを流しています。	利用者の作品である「令和」の文字が、玄関やリビングに飾っており、訪問者を和ませてくれる。リビングでは利用者同士が大きなテーブルを囲んで馴染みの歌を合唱したり、テレビで「おわら」を見たり、また共用スペースの中でも一人を好まれる利用者もあり、それぞれに居場所が提供されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには食事をする場所と別に和室や「日だまり」と呼ばれるスペースがあり、入居者の望む居場所を提供できています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人がこれまで使用していた馴染みの家具や写真などを持ち込んでいただいています。出来るだけ本人のこれまでの生活環境の継続に努めています。	使い慣れた馴染みの家具を持ち込んだり、家族写真やお気に入りのかわいい手づくり品を飾るなど、利用者の好みや家族の思いも感じられるような居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には必要な手すりがついており移動動作の自立を支援しています。また風呂場やトイレ、居室には目印がついており、場所がわかるようにしています。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームやつお  
作成日 令和 1年 10月 20日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域の防災訓練に参加し、地域住民との情報交換や協力体制を呼びかけたり、災害によるライフラインが遮断された事態も想定し、職員の体制や備蓄品の見直しも随時進めていくことが望まれる。	地域と一緒に防災への取り組みを行う。	町内会の会合に参加して交流を図り、防災への情報交換を行います。また、協力体制の構築のため地域の防災訓練にも参加します。事業所内でも災害時に発生する事態を想定し、随時対応を見直します。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。